

はあと

メディカルインフォメーション



このたびの台風 19 号により犠牲となった方々にお悔やみ申し上げるとともに、被害を受けられたすべての皆様に心からお見舞い申し上げます。

復旧作業が長期化し、深刻な状況が続いておりますが、皆様の安全な生活と一日も早い被災地の復旧をお祈り申し上げます。

第100号

発行日
2019年10月31日

日本私立学校振興・共済事業団
東京臨海病院

広報誌『はあと』第100号 発刊にあたって

病院長 小林 滋



院外広報誌『はあと』が発刊第100号を迎えることができました。心より嬉しく思います。私がとくに感慨深く思うのは、当初から『はあと』の立ち上げに、広報委員長としてかかわった経緯があるからだと思います。

東京臨海病院が産声を上げて間もないころは、西葛西駅でタクシーに乗り「東京臨海病院まで行ってください」と告げても誰も知らないような病院でした。それが嬉しいことに、今では少し遠いところでタクシーに乗っても分かってもらえるようになりました。

当時は、職員同士でも部署が違えば、その人となりも分からない状態でしたので、広報委員会では幾多の議論の末、職員間の垣根を取り除くための【院内広報誌】と病院をよく知っていただくための【院外広報誌】の二つ広報誌を刊行することに決めました。院内広報誌は年4回、院外広報誌は年6回発行することにしましたが、掲載内容については多くの議論を交わしたことを覚えています。結局、院外広報誌の創刊号は、開院から丸1年かかりました。

この原稿を書くにあたり、既刊の『はあと』をすべて読み返すことにしました。『はあと』という名称は第3号から用いられており、公募した名称の中から広報委員会で選択しました。各号ごとに委員会でも時節にあった記事の内容を選別して、執筆を依頼してきたことも楽しい思い出です。職員の新任時の初々しさに思わず笑みがこぼれ、また、去って久しい職員たちが懐かしく感じられました。

第79号の表紙は私の病院長就任あいさつでした。その中で、私は二次救急医療の充実を掲げています。ご存知の通り、一次救急とは、入院の必要がなく帰宅可能な軽症患者に対して行う救急医療のことです。当院は一次救急で対応できない救急患者さんを主に診察させていただく二次救急病院ですので、一次救急の軽傷患者さんは診察をお断りせざるを得ないこともあります。時間外に紹介状を持たずに救急車以外で来院された急病患者さんから選定療養費を頂くことでご批判もいただきますが、病院機能をしっかりと区分することで、救急医療を充実させるために重要な制度です。ご理解いただきたいと思います。

また、がん診療、小児医療、周産期医療につきましても、『はあと』第100号の節目に心を新たに、さらに安全で高度な医療を目指す所存です。

これまでも『はあと』を愛読いただいた皆様は、真の東京臨海病院応援団だと思い感謝しております。皆様のご支援によって育ていただいた病院をより良い病院に発展させていくことは私どもの責務と考え、毎日努力していきたいと思っています。

今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。



当院は
日本医療機能評価機構による
「病院機能評価認定病院」です

目次：

広報誌『はあと』 第100号発刊にあたって...	1
「NBC・災害・テロ対策訓練」 を実施しました	2
「第18回区民公開講演会」 を開催しました	2
ジャパン・マンモグラフィ・サンデー を開催しました	2
「第8回世界糖尿病デー キャンペーン」のお知らせ ...	3
糖尿病教室	3
がんセンターカフェ	3
ICT times Vol.38 「インフルエンザワクチンを接種しましょう」	3
ちょっと気になるこんな制度...	4
編集後記	4

■「NBC・災害・テロ対策訓練」を実施しました

2019年9月28日(土)東京臨海病院にて、東京消防庁の協力のもと大規模な【NBC・災害・テロ対策訓練】を実施しました。来年は東京オリンピックの開催も控えており本番を想定した訓練にも力が入りました。シナリオは、オリンピック会場でサリンが撒かれ急性中毒患者が多数発生した(重篤2人、軽傷6人)と想定し化学テロ対応の専門部隊である化学機動中隊の出動を想定しました。汚染物質を付けたまま病院に入れてしまうとスタッフの二次被害を起こします。徹底した病院前除染が求められるのです。



患者のいる汚染ゾーンは明確に隔離します。



レベルAの防護服をまとった救急隊員。



汚染物質が未同定の現場ではレベルAでしか近寄れません。



受け入れる病院側もレベルCの防護服で二次被害を防ぎます。



重症者は流水による除染も徹底します。



災害時、病院長は本部責任者となり、救急部長は救護所の指揮を執ります。



今年も多くの職員が参加しました。NBCテロ対策訓練では汚染エリアとクリーンエリアの区別を徹底します(ゾーニング/zoning)。ゾーニングの概念は職員にも浸透してきてきました。



東京消防庁の協力のもと大規模な訓練が実施できました。来年も訓練をお願いしたいところですが、来年はオリンピック本番で全く余裕がないとのことでした。今回が本番前最後の大規模訓練となりました。



当院は、災害拠点病院として日々このような訓練を実施しております。いざという時、皆さまのお役に立てるよう職員一丸となって訓練に励んでおります。

■「第18回 東京臨海病院 区民公開講演会」を開催しました

2019年10月19日(土)「タワーホール船堀」にて、講演会を開催しました。区民公開講演会は、平成23年より年2回開催しており、今回も江戸川区民の方を中心に多数の方にお集まりいただき、盛況のうちに終了することができました。

今回の講演会は、来年5月18日(土)開催予定です。詳細はあらためてお知らせいたします。



『その尿症状 その尿性状
もしかして・・・』
泌尿器科医長 家田 健史



『当院の外来化学療法について』
がん化学療法看護認定看護師 太田 久美子



『前立腺がんと膀胱がんの
最新の放射線治療について』
放射線科医師 廣渡 寿子

■「ジャパン・マンモグラフィサンデー (JMSプログラム)」を開催しました

2019年10月20日(日)健康医学センターにて、ジャパン・マンモグラフィサンデーを開催しました。当日は、乳がん検査だけでなく、乳がんのこと、検査のことを知っていただくこと、乳がん触診体験のできる模型や、検査・治療について掲示物等を設置し、診療放射線技師が説明や質問に答えるなど受診者の皆さまに楽しんで検査を受けていただけました。

♥「ジャパン・マンモグラフィサンデー」とは・・・
多忙な平日を過ごす女性のために、日本乳がんピンクリボン運動(NPO法人J.POSH)が年に1度、10月の第3日曜日(ナショナルマンモグラフィデー)に、乳がん検査が受けられるよう、全国の医療機関や自治体に呼びかけて始めた取り組みです。



Pink Ribbon

「第8回 世界糖尿病デー キャンペーン」のお知らせ

毎年11月14日は、国連、WHOにより糖尿病予防啓発活動の一環として「世界糖尿病デー」に制定されています。当院でも、以下の内容でキャンペーンを行います。お問い合わせのうえ、お気軽にお越しください。

- 日 時 / 11月14日(木) 9:30 ~ 12:30
- 場 所 / 1階エントランスホールにて
- 内 容 / 各種測定(血糖値)、各種展示(ポスター掲示、カロリー調整食、清涼飲料水の砂糖含有量)、糖尿病を専門にしている医療者による健康相談等を行います。
各コーナーにすべてご参加いただいた方(先着50名)には、健康お役立ちグッズのプレゼントがあります。



参加費無料

昨年のキャンペーンの様子
大勢の方に、ご参加いただきました。



「糖尿病教室」のお知らせ

月2回程度、糖尿病教室を開催しております。糖尿病に興味のある方は、どなたでもご参加いただけます。

- 時間 13:00 ~ 14:00 (12:40 開場)
 - 場所 大会議室
 - 参加費 無料 ■ 申込み 不要
- ※当日は直接会場までお越しください。

日 時	テ マ	担 当
11/11(月)	糖尿病と歯の関係 糖尿病と足のはなし ～血糖値を下げる運動を知ろう～	歯科医 糖尿病看護認定看護師
11/21(木)	糖尿病の食事 外食編 ～減塩と外食の調整を知ろう～	管理栄養士
12/ 2(月)	糖尿病とは 血糖値を測ってみよう! 糖尿病の検査の話	糖尿病専門医 糖尿病看護認定看護師
12/16(月)	糖尿病の合併症の話	糖尿病専門医

★【糖尿病スタンプラリー】を開催しています。全テーマ参加者には、健康お役立ちグッズを贈呈しますので、ぜひご参加ください!

「キャンサーカフェ」にお立ち寄りください

キャンサーカフェでは、がん患者さんやそのご家族の交流の場やミニ講座に加えて、個別相談もお受けしています。薬のことや食事や栄養のこと、仕事や生活全般のことについて、ご心配なことやおわかりにならないことなど、遠慮なくお尋ねください。

- 時間 14:00 ~ 15:00 <ミニ講座 / 14:15 頃予定 (15 ~ 30 分程度)>
- 場所 第1・2会議室

参加費
無料出入り
自由当日
参加可

ICT times Vol.38

インフルエンザワクチンを接種しましょう

インフルエンザは、「インフルエンザウイルス」に感染することによって起こります。インフルエンザにかかると、急な高熱、頭痛や関節痛などの全身のだるさに併せて咳やのどの痛みなどもみられます。さらに、65才以上の高齢の方、5才未満の小児、妊婦、慢性呼吸器疾患や慢性心疾患などの基礎疾患を持つ方は、症状が重くなる可能性が高くなります。

インフルエンザの予防の基本は、流行する前にインフルエンザワクチンを接種することです。ワクチンを接種することでインフルエンザに感染しにくくなり、感染しても症状が軽く済むことが分かっています。ワクチンによる予防効果は、一般的には接種後約2週間から5ヶ月までであり、またインフルエンザウイルスは毎年変化しながら流行するため、毎年流行が予測されるウイルスの型にあったワクチンとなっていますので、インフルエンザが流行する12月頃までに毎年接種することが必要です。(※ワクチン接種を受ける際には、配付される注意事項等をよく読んで、理解してから受けるようにしましょう。)

インフルエンザの予防には、全ての人が「かからない」「うつさない」を心がけることが重要です。インフルエンザワクチンの接種とともに、手洗い、咳エチケットも感染予防の基本となります。帰宅時や食事前などのこまめな手洗い、外出時のマスク着用なども忘れずに行いましょう。



医療福祉相談室 発

ちょっと気になる こんな制度

『児童虐待防止推進月間』によせて

厚生労働省は 2004 年から、毎年 11 月を児童虐待防止推進月間と定めて、児童虐待について国民の関心と理解を深めるため、様々な啓発活動を行っています。(図のようなポスターを当院も掲示しています。)

また、オレンジリボン運動(児童虐待防止全国ネットワークの活動)のシンボルマークをご覧になる機会も多いのではないのでしょうか。

児童虐待の防止は児童相談所をはじめとする行政機関だけで行うのではなく、私たち一人一人が児童虐待について知り、児童虐待のない社会・子育てにやさしい社会を目指して取り組んでいくことが求められています。

児童虐待は重くて^{いか}厳めしく特別な世界の出来事のように感じられるかも知れません。しかし「大人による子どもへの不適切な関わり」であるこれらの出来事は、痛ましい事件として報道されるような重篤なケースばかりでなく、ごく日常的にも起きています。様々な理由から育児がスムーズにいかず、結果として子どもへの不適切な関わりが生じてしまうのは、決して特殊ではなく誰にでも起こりうることなのです。ですから事態が深刻化する前に支援の手が差し伸べられることが重要です。



『未来へと命を繋ぐいち早く』(平成30年度)『ためらわず知らせてつなぐ命の輪』(平成26年度)

これは児童虐待防止推進月間の標語です。児童相談所をはじめとする行政の窓口で連絡(通報)するのは勇気のいることかも知れませんが、渦中にある子どもはもとより大人も自ら声を上げるのが難しい現実があります。私たち一人一人が子どもや保護者のサインに気づき専門機関に相談や連絡をすることは、支援の第一歩となります。

■ 編集後記

秋といえばスポーツの秋ですね! 9 月より、アジア初の開催となる『ラグビーワールドカップ 2019 日本大会』が行われ、日本各地で熱戦を繰り広げています。

【ワンフォーオール・オールフォーワン / 一人はみんなのために、みんなは一つの目標のために】、試合後の【ノーサイド / 敵味方なく】という有名なラグビーの精神は、他の場面でも通ずることがあると思います。是非この言葉を胸に試合観戦してみてください。関わる全ての人への尊重から生まれるフェアプレー、それでいてダイナミックなラグビーの世界に魅了されるに違いありません。試合終了後の清々しい光景を秋の空に思い浮かべ、みなさんも体のため健康のために適度な運動に励んでみてはいかがでしょうか。



■ 休診のお知らせをホームページに掲載しています。

当院ホームページにて、休診のお知らせを掲載しております。ご予約以外で受診される際ご確認をお願いします。なお、医師の急な都合により、休診情報を掲載できない場合がございますので、あらかじめご了承ください。

ホームページをご覧ください <http://www.tokyorinkai.jp/>

■ 「東京臨海病院公式 Facebook」を始めました

東京臨海病院ではこのたび Facebook ページを新設しました。病院の院内・院外活動について情報発信を行っていきたいと思います。

診療実績

2019年8月の当院の実績は以下のとおりです。

病床数: 400 床

医師数 (2019年8月1日現在): 87 名

外来延患者数: 18,687 名

入院延患者数: 10,334 名

手術件数: 295 件

【11・12・1月の土曜診療日】 11月9日、12月14・28日、1月11・25日

■受付時間■午前8時～午前10時30分 原則として予約診療はいたしません。

年末年始の診療のご案内は、次号にてお知らせいたします。